



國防上の道路とその鋪装

田川大吉郎

一

問題が専門家的である。私は、その取扱ひ方に惑ふ所があるけれど、尙一言して見たい。

と申すは、昨年來私はしばく支那に往つた。それは、上海とか、北京とか、天津とか、概して、支那の入り口、その戸口のところを書き覗いたゞけで、進んで戰煙のむらがる奥地を尋ねた譯では無かつたけれど、それでも、かれこれと、道路——歩道、車道、鐵道を合せて——に關する評判を聞いた折があるからである。

日本の空軍が繰返し／＼粵漢鐵道を爆撃した折のこと私はその大爆撃の報道に接した都度今度こそは、粵漢鐵道を破壊して、木つ葉微塵、交通の用には全く立たしめなくなるものだらうと解してゐた。それは、斷るまでもなく、素人たる私の無智から來つたもので、専門家たる諸氏はさうは期待されなかつたであらう。やがて、その鐵道は一週間と経たない間に修理復活し、立派に用を足すことになつた。大爆破を加へた後がさうである。まして、それ程でないものは、その日の中に、その數時間の中に修理を加へ、復活出來た様である。

私は、それを聞いて意外に感じた。そして、その附近の民は、大爆破怖るゝに足らぬと。勿論、それは噂であるが、高をくゝつて見縊つて居る様に聞いた。又廣東邊の苦力が米國の新聞記者に日本では多額の費用をつかつて道路に穴をあける爲に爆弾を投下して居るが、支那では極く少額の費用ですぐ修理するのである。此の様な爆撃は、多ければ多い程、日本の財政は困るであらうと話したとのことである。以て、その被害の程度と、それに對する彼等の感じの一斑が窺はれるでせう。私は苦笑する外なかつた。

そして私の得た所斷は、普通の道路ですら斯うである。堅固に鋪装した道路なら、それだけ高度に敵の襲撃に耐へ得る。されば今後の歩道、車道は、成し得るだけ堅固に鋪装すれば足る。多く心配するに足りないと、斯うであつた。それは、素人の妄斷であらうか。

歐洲の大戰争の跡を見た折、大爆弾の投下した跡に、數丈の廣さの窪地のあるのを所々に見た。

その炸裂の際の破壊と震動の餘響を思ふて慄然としたことは申すまでもない。それは、今に至つて能く記憶いたして居る。が、たゞの平地である。たゞの道路である。そこに爆弾の落下して興ふる所の毀害に對し、呑氣な支那人が苦し紛れにもせよ斯く語つて、斯く思ふて居るらしいことはやゝ察せらるゝ事情でもある。

二

支那の新聞を見れば、蔣介石政府は、道路の建設に必死になつて居る。

判も亦頗る高い。

一體、支那は自然任せの國である。道路の幅は日本のそれより廣いかも知れぬ。が、人間の力の入れ方は甚だ足りない。従つて、いづれも粗弱である。一と雨降れば直ぐ崩れる。全く崩れないまでも、通行には困難を感じる。能く馬匹を使ひ能く車輛を使ふ習慣で、それは日本以上であると認められるゝが、雨後の泥濘に車輛を没して、さすが數頭立ての馬匹でも、その牽引に困つて居る姿は所々に見られること、支那の道路には實に人工的補強が殆んど施されてゐないのである。河川の修理が届かないで、その氾濫の威力には、何うしても抵抗し得ないといふ虞れの影響もあるからであらう。

國家的經營の初步たる道路の建設に全力を注いで居るのである。注がねばならない必要に迫られて居るのである。そこには、勿論鐵道建設の必要もある。彼等はそれをも急いで居る。それと相まって、その交通の能力を強化せんとし、彼等があせりにあせつて居ることは想像に難くない。戦争は國運を急速に發展せしめる。戦時の三年は、平時の三十年にも當る急速の發展を遂ぐるといふは、これらとの點に於て眞實である。戦争なくては支那の道路は今日の如く發達しなかつたに相違ない。

それに對し、日本の今日の焦りは生産擴充である。生産擴充のための諸多の建設的計畫である。日本はそのために實に忙がしい。兩國の進運の差は、他のいろいろの點に於ても對照せらるゝところであるが、私は、以上の二點、支那は道路の建設に目下殊力を注いで居り、日本は生産物の擴充計畫に殊力を注いで居ることの二點が最も分り易い、最も著明な比較であり、現象であると思ふ。

そして、支那の道路建設が、いつになつて出來上るかを知らぬ。間に合せることは今日でも出来る。相當堅固な重量ある貨物車の運轉に耐へる堅固の道路が出來上るのは何れの年か、必要な汽車の發達するのは何れの年かを知らぬ。日本の生産擴充計畫の成功するのは昭和十六年が目標である。目標通り着々運んで居ると、當局者が説明するのを聞くことは、國民の齊しく感謝に堪へないところである。どうぞ、その豫期の如く成功せんことを祈る。

三

以上とは異なる道路建設上の注意がある。殊に國防上の道路の建設であるが、それが盲目蛇に怖ぢざる素人の獨説であることは、これ又あらかじめ容赦せられたい。

最近のこと、英國の資本家達は、空軍の襲撃に對する防禦のため、自動車の繫留場を地下に作らんことを政府に建議した。それは、平時に用ひるのである。けれども、戦時の萬一の用を豫期することが主である。戦時、敵の空軍の襲撃の場合に、百萬の民衆をしてそこに避難せしむるを主なる目的とするのである。乃ち、戦時の萬一の避難を主なる目的とし、平時の自動車の繫留を從の目的として、地下に道路及び廣場を建設せんとするのである。

戦時の用は別である。平時の用は收支が償ふ様にしなければならぬ。それは償ふ。償ひ相な目途が立つ。但し、政府はそれを保證せよ、罷り間違へば、補助せよと申すのである。

それは、地下凡そ五十呎、六十呎のところに自動車の繫留場を作るのであつて、勿論その出入には、近代の技術が許す範圍の最巧の施設を加へて自由自在ならしめる。その廻轉にも、移動にも、自由ならしめる。充分に電氣を利用する。それは、地下に限らない。あいた廣場の適當な所があれば、そこにも施設して、空襲の爆撃に堪へ得る堅牢の設備をする。市民は安心してそこに隠れることが出来る。留まることが出来る。一時の避難には決して不足の無い様にするといふのである。

それは、ロンドン市の地下と表面とに限らない。他の都市にも設くる計畫であるが、差當り、一億圓の資本にて着手する。政府は、それに四分配當の保障をせよ、會社は、自動車一輛に對し一時間十二錢

——三ペソス——の繫留料を徴する。それで、依頼者は多數あるだらうと思ふから、相當の配當が出来ると信ずるけれど、尙、政府の以上の如き保障を求めて置く。それがあれば、株の募集は容易である。政府は敵の空襲に對する豫防のため、この保障を奢むべきであるまいと申すのである。

私は、企業家のこの申し出だが、英國政府に由つて如何に取扱はれたかを知らない。が、國防治安大臣——斯く評していゝか、シヴィリヤン・デ・エンジニア省の大臣である——アンダーソンは、萬一の場合を不安がつて押かけたロンドン市民の代表者の要求に答へて、政府の計畫は着々進んで居る。その場合の避難所は必要である。その避難所は完全に設備し、決して危難の無い様にしなければならぬ。政府はその計畫案を近く議會に提出する。その役所は平時には必要としないと信ずるけれど、戰時には無論必要であると信ずる。その時の考案も既に出來て居ると告げた。そして、その申した設備の完全な避難所、絶對に安心の出来る避難所は、たしかに、右の企業家等の申した避難所であらうと新聞紙は解して居る。私は、右の如き計畫が、英國に進みつゝあるものと認めるのである。

そして、それは、英國のみのことではない。世界の各國に皆々必要のことであると私は考へる。但し、國に由つては、今日でも戰爭を豫想しない國がある。瑞典や、諾威や、北歐に位置するスカンデナヴィヤの諸國は概して其の類であらうと想はれる。其の他にもある。が、それらは例外として、英國の如く土地狭くして、大陸の強國と面し、何日、襲撃せらるゝか測られない位置に在り、日々、戰爭の噂に包まれて居る國柄では、以上の如き設備が殊に必要であらうと思ふ。日本の形勢もそれに類して居る。

日本は、英國がその様の備へを急いで居る如く、又、その様の備へを急がねばならないと思ふ。そして、私は、それが期せずして道路の位置にも、計畫にも、變化を來すものであらうことを見ひ、少くとも、いろ／＼の影響を被るものと思はねばならないと思ふて居る。

四

それが、如何様の變化を來すであらうかは、私の何とも言ひ得ないところである。専門家諸氏の御指教を仰ぎたい。

市街の體様は、いろ／＼の影響を被るものとして、(一)米國の摩天樓の如き高層の建築は安全と謂へるであらうか。(二)水道の如き、瓦斯の如き、全市民の日々の生活に密接の關係ある事業は、今日までの如く、一個所に集中しては可けまい。それは、數ヶ所に分設しなければなるまい。(三)同様の必要が道路にもある。曾て、國防の必要を思ふて、鐵道を建設するに海岸線か、山の手線かといふ争ひがあつた。そして、所に依つては、二線を分設した所がある。その二線、三線の重要道路を建設する必要がある。それよりも、地下の道路を作る必要があらう。それを作るなら、その様の市街が出來る譯、これからは、從來の高層建築に加へて、若くは、それを控へて、反つて地下街を作る必要がありはしまいか。今日に於ても、海外の大都市には地下の住居が多い。それ故に空襲に對して彼等は比較的に安堵して居る。(五)日本にはその地下室の備へが餘りに少い。これからはそれを備へることにすべきであ

らう。ふそれらが道路の建設に、種々の影響をもたらすことは必然である。それは、直接に、間接に必ず來らねばならない。

國防上の道路、曾て、軍用道路と謂はれた、それの建設と、それを堅固に鋪装することの必要は申すまでもないが、軍用ならざる普通の道路の、全くの影響をもたらすことは必然である。それは、直接に、間接に必ずしては、戦争は出來ない。殊に、持久の戦争も亦強度に鋪装すべきである。その交通上の完全なる補強などに對して必要なのみでなく、戦争力の維持、擴充のために必要なのであるが、私は、以上の如くそれを専ら敵襲の場合に限つて論じて見た。そして、敵襲の場合に必要とせらるゝそれは、敵襲のない場合——例へば今日の日支戦争の如き場合——にも同じく必要である。日本は、支那に對し、比較的優良の道路を有するため、戦争に應ずる各般の必要のため、どれだけ多くの利益を擧げて居るか知れない。しかし、その戦争は、獨り今回の支那との戦争の如くであらうと思はれない。日本はます／＼道路を完全にせねばならぬ。鋪装がます／＼必要である。英國に於ける避難所建設の必要が迫つたとの報道に接して、一層、その感じの切なるを覺ゆる次第である。(昭和十四年三月十日)